

ウッドバッジ研修所
スカウトコース・課程別研修
所員用ハンドブック

令和4年度版



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

目 次

1. ウッドバッジ研修所の開設にあたって	P 1
2. 日程表	P 7
3. セッションの目標	P 10
4. 「課題研修」課題	P 14
5. セッションの運営	
スカウトコース	
§ 1 ウッドバッジ研修所について	P 17
§ 2 基本動作	P 18
§ 3-I スカウト技能（野営技能・設営）	P 20
§ 3-II スカウト技能（野営技能・撤営）	P 21
§ 4 野外炊事	P 22
§ 5 スカウト運動	P 23
§ 6-I 夜のプログラム（夜間ゲーム）	P 25
§ 6-II 夜のプログラム（キャンプファイア）	P 26
§ 6-III 夜のプログラム（歓迎の営火）	P 27
§ 7 スカウト活動における安全	P 28
§ 8 班長訓練	P 29
§ 9 班集会	P 30
§ 10 スカウト教育法	P 31
§ 11 班の活動（班ハイク）	P 32
§ 12 隊集会	P 33
§ 13 安全の運用	P 34
§ 14 隊指導者の役割と責務	P 36
課程別研修	
ビーバースカウト課程	P 39
カブスカウト課程	P 51
ボーイスカウト課程	P 61
ベンチャースカウト課程	P 69

ウッドバッジ研修所の開設にあたって

1. ウッドバッジ研修所の基本方針

(1) コースのねらいと概要

本コースは日本連盟100周年を目指した長中期計画の重点施策の一つとして、「全ての部門の指導者がスカウト活動の基本的な知識・技能について修得した上で、各部門の特徴に合わせた隊活動が実施展開できるようになる」ことを掲げています。

隊指導者基礎訓練課程は、各部門の隊指導者が共通に履修し、スカウト運動の基礎を学ぶ「スカウトコース」と、それぞれの部門の特徴を学ぶ「課程別研修」とで構成されます。修了者には、課程別研修にて履修した課程について、修了証が授与されます。

(2) ウッドバッジ研修所の目的と目標

スカウトコースの目的は、「参加者がボーイスカウト指導者としての責務を果たすことができるように、スカウト教育に関する基本的な内容を習得することを目的とする。」とし、課程別研修は、「参加者が当該部門の隊長としての責務を果たすことができるように、隊運営に関する基礎的な方法を習得することを目的とする。」とします。

また、参加者が研修を通じて達成される学習の目標は以下のとおりとします。

<学習到達目標>

1. 隊指導者の役割と責務を理解する。
2. スカウト活動の基本的な知識・技能について修得する。
3. スカウト活動の基本的な実施展開について理解する。
4. 隊長として、部門の特徴を理解し、プログラムの計画と実施が出来る。(課程別研修)

(3) ウッドバッジ研修所の性格と運営方針

次の点に留意し、運営してください。

- ① ボーイスカウトの隊指導者が身につけるべき基本的で且つ共通な内容を取り扱う。
- ② 学習の場は講義だけでなく、野外生活においてもセッションと位置づける。
- ③ 「How To」を身につけることを主とした研修とする。
- ④ 隊編成で運営し、標準のボーイスカウト隊の活動や運営を体験する。
- ⑤ スカウト運動の基本原則やスカウト教育法については、研修所での生活やセッション等での学習や体験をふりかえりながら行う。
- ⑥ 所員全員が学習支援者となる。

2. 運営と展開

(1) 運営方法

① 隊編成での実施

- ・ コース期間中は隊編成で進めます。
- ・ § 1 の前に隊編成式を行います。
- ・ 隊旗・班旗・班呼を活用します。
- ・ 隊旗および班旗・班長章・次長章・班別章などの模擬記章を使用する場合は、各コースで準備してください。

②班名のつけ方

班名は「ふくろう」「かっこう」「きつつき」「やまばと」「はやぶさ」「きじ」とします。

③班編制

班編成は、参加者の研修歴や性別など、特性をよく把握して編成することが重要となることから、所長や隊長役の所員が中心となって編成をします。

参加者に班内役務を色々体験してもらうため、班長、次長は交代します。

④点検と講評

ボーイスカウト隊での実施方法で行います。

⑤朝礼の実施

朝礼はコースとして、所員・参加者全員で行います。所長は朝の言葉で、「ちかい・おきて」を取り入れた内容を話します。

⑥「入門」の実施

研修のスタートにあたり、参加者および運営に携わる所員全員が、「成人としての学習」への取り組みについて清新な心構えをもって臨むことを、所長を中心に一人ひとりが確認すること、また、スカウト運動に関わる成人として、運動に参加する青少年の成長に貢献することの決意をあらたにすることをねらいとして「道心門」を設置し「入門」を行います。

⑦スカウトOWN・サービスの実施

- ・参加者に対して、信仰心を高め、ちかいとおきての実践をより深めるために、スカウトOWN・サービスを行います。
- ・スカウトOWN・サービスの実施は、期間中に3回組み入れるほか、所長の裁量により隊集会の中で、あるいは夜の課業終了時などに班を中心として自発的に体験を重ねる機会を作ることも必要です。
- ・スカウトOWN・サービスの実施に際しては、次のことに留意し、参加者にも伝わる様な配慮をお願いします。
 - *スカウトOWN・サービスは、スカウト自身が行う礼拝のことである。
 - *スカウトOWN・サービスは、キャンプ期間中の日曜日に行うものであると考えられていた時期もあるが、本来はいつ行ってもよく、また、キャンプ期間中だけでなく、隊集会、班集会など、あらゆる場面で実施できるものである。
 - *朝礼の後で行うときは、朝礼と区別するために、向きを変えたり、場所を変えたりして、はっきりした意図をもってスカウトOWN・サービスを行うようにする。
 - *夜、火を囲みながら行うときは、キャンプファイアやヤーンと混同しないように配慮する。
 - *スカウトOWN・サービスの形式は自由であるが、聖句や聖歌など、スカウトOWN・サービスにふさわしい言葉や歌を組み入れて実施する純然たるスカウト活動である。
 - *サービスには祈りという意味がある。歌で気持ちを一つにし、その祈りを高揚させるためのお話し（言葉）を組み入れることが大切である。

⑧当番班について

当番班については、運営上役割の一部を順次参加者に分担してもらう主旨から置くこととします。当番班の役割などについては趣旨を説明し、初日に指名を行うようにします。

(2) 所員の編成と役割分担

<基本型>

①スカウトコース

役 割	人 数	主 な 役 割
所 長	1 人	基本訓練全般の運営・指導・管理・安全管理
隊 長 * 隊編成における隊長	1 人	隊運営に関わるセッションの準備・運営
副 長 * 隊編成における副長	2 人	教務：教具・教材・資材・資料準備 生活：生活全般の運営・指導・支援・安全管理
上 級 班 長	1 人	集合、解散・班長への伝達
班担当所員	4 人～	研修と生活の支援、各班に 1 人
所 員	適宜	研修の支援
Q M	1 人	教具・教材・資材・資料・食料などの管理運営
A Q M	1～2 人	QMの補佐
記 録	1 人	所員会議およびセッション内容の記録

②課程別研修

役 割	人 数	主 な 役 割
主 任 講 師	1 人	訓練全般の運営・指導・管理・安全管理
講 師	適宜	各セッションの担当
記 録	1 人	所員会議およびセッション内容の記録

<一括型>

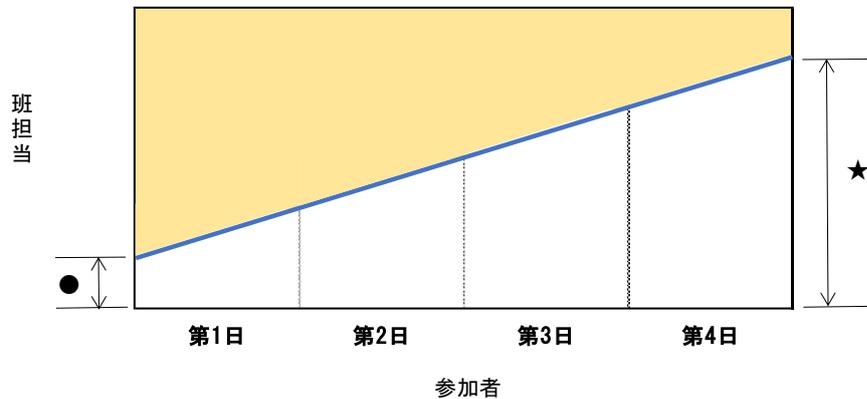
役 割	人 数	主 な 役 割
所 長	1 人	基本訓練全般の運営・指導・管理・安全管理
隊 長 * 隊編成における隊長	1 人	隊運営に関わるセッションの準備・運営
副 長 * 隊編成における副長	2 人	教務：教具・教材・資材・資料準備 生活：生活全般の運営・指導・支援・安全管理
上 級 班 長	1 人	
班担当所員	4 人～	研修と生活の支援、各班に 1 人
所 員	適宜	研修の支援
Q M	1 人	教具・教材・資材・資料・食料などの管理運営
A Q M	1～2 人	QMの補佐
記 録	1 人	所員会議およびセッション内容の記録

※課程別セッションの担当者は、上記所員の中から選任する

(3) 班担当所員の役割

- ① 班担当所員は、すべてのセッションにおいて、班における生活と学習の両面において支援を行います。これは、キャンプでの生活や野外における活動が、スカウト活動の基本的な知識や技能を体得するために、非常に効果のある機会となるからであり、設営や野外料理の指導、野営工作の日々の改善、撤営を含め、参加者とともに生活や活動を共有することにより信頼関係を築き、参加者の心と身体の両面に研修効果を与えることとなります。
- ② 班担当所員は、すべてのセッションに関与することから、特定のセッションの担当になることは望ましくありません。すべてのセッションをよく理解し、セッション担当者と綿密な打ち合わせが必要となります。このことから班担当所員は、スカウティングに関する知識と技能を十分に持ち合わせ、トレーニングに対する心構えを理解して臨まなければなりません。

- ③ 班担当所員は、担当する参加者の特性、経験、技能等を十分に理解し、それらを受容し支援を行うことが大切です。よって支援の方法を定めるためには、班編成が非常に重要なポイントとなりますので、参加者個人の特性が十分に活かされるような指導が必要となります。
- ④ 参加者への支援度合いは下図に示すように第1日から日ごとに修得、新たな気づきを得て成長し、変化していきます。
- ：参加者が第1日目で備えている知識、スキル
 - ★：第4日での理解・成長した状態



班担当所員の支援と参加者の成長度合いの関係図

- ⑤ 班担当所員の役割は所属団では存在しない役割であり、研修効果を上げるための役務であることを理解して、参加者に誤解を与えないように留意しなければなりません。

3. セッションを進めるにあたっての留意点

(1) 研修所の目的と目標および各セッションの目標と指導上のねらいについて

これらを変えることはできません。また、学習効果をあげるために、各セッションは関連づけられていますので、セッションの順番も変更できません。

(2) セッション運営要項作成にあたって

次の3点を網羅して作成してください。

<p>訓練目標とは セッション担当が参加者に獲得させるべき達成事項。</p> <p>指導上のねらいとは セッション担当が、参加者に特に獲得させたいという意図を持った具体的事項。</p> <p>セッション運営要項作成にあたって</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セッションの概要 2. 訓練目標を達成するための留意点 3. その他確認事項

4. 運営についての留意点

(1) 参加者に対して

- ① 参加者は、それぞれの社会的経験、職業経験等から様々な価値観を持った「成人」であることを十分に認識し、接することが必要です。また、参加者は、指導者としては初心者ですので、時には指示的な態度を取ることが必要なこともあることを理解しておきましょう。

- ② 基礎訓練課程を終えても、隊長としての役割を十分に果たしていくためには「スキルトレーニング」を修了し、1年後「ウッドバッジ実修所」への参加が必要であることを伝え、実修所の課題研究の内容や学習の概略を説明し、更なる研修への参加意欲が向上するように配慮することが必要です。

(2) 情報の提供と個人情報の取り扱いについて

研修所では、さまざまな情報を提供していますが、日本連盟や県連盟で検討中の未決定事項については、原則として情報提供を**しないでください**。仮に、提供しなければならない場合においては、何をどのように伝達するかについて精査し、あくまでも『検討中の未決定事項』として提供するとともに、そのことについて所員にも十分に周知徹底しておいてください。

また、研修所で知り得た参加者の個人情報については、慎重に取り扱うようにしてください。

(3) 所長・所員に求められるもの・心構え（態度）について

- ① 参加者の学習を支援し、促進する役割を所員は担っているということを常に確認しながら運営にあたることが大切です。
- ② 指導者の訓練に携わる指導要員はそれにふさわしい品性が必要とされ、指導要員として常に参加者の模範となり、良い意味での威厳を保つことが必要です。
- ③ 飲酒は**厳禁とします**。
- ④ 喫煙については所定の場所以外では喫煙しないよう、またくわえタバコでの歩行は**厳禁**にしないようにしてください。
- ⑤ 飲酒や喫煙に関して守らない参加者や所員は**即時退所**させてください。

(4) 開設業務要項

開設県連盟の業務を記した「開設業務要項」を作成しますので、所長、主任講師、QMは記載内容を確認してください。

5. 運営における所長としての責務

(1) 所員編成

地域の実態や参加者の状況を把握し、十分な成果をあげるのにふさわしい所員の構成を図ります。

(2) 所員への支援

- ① 所員の各役務に対して、特に十分な支援・指導を行ってください。その人にとって研修所は実務研修の場であり、所長にとっては良き指導要員を養成するための個別支援の機会なのです。**班担当所員の育成はOJTでは行いません**。
- ② 所員が作成するセッションの指導要項について十分な指導・支援をしてください。

(3) 履修・修了認定について

各コースの履修・修了認定については所員の意見を参考にして、所長・主任講師の責任で行います。

認定者には、基本型の場合、所長からスカウトコース履修証とギルウェルウォググルが授与され、課程別研修修了時に、主任講師から当該課程の基礎訓練課程修了証が授与されます。一括型の場合、所長からスカウトコース履修証、ギルウェルウォググル、当該課程修了証が授与されます。

訓練修了記章は課程の修了をもって着用することが出来ます。

(4) 研修所全体の評価について

研修所の全体的な評価については、所長を中心に最後の夜の所員会議または、全日程が終了した直後に『管理と運営』『セッションの展開』『目的と目標の達成』等についての総合的な評価を行います。

6. 安全管理について

「指導者訓練コースにおける安全管理ハンドブック」を参照してください。

ウッドバッジ研修所 ビーバースカウト課程別研修 日程表

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月 日 ()											
第 1 日		受付開始	受 付 開 始 30	ソ リ エ ン ツ の 研 修 に ヨ	§ B-1 ちかいとおきて (ビーバースカウト のやくそくとときまり) と年代の特性	§ B-2 ビーバースカウト 隊のプログラム	屋 食	§ B-3 隊集会	§ B-4 プログラム開発 と年間計画	§ B-5 隊集会 プログラム	閉 会 式 30

ウッドバッジ研修所 カブスカウト課程別研修 日程表

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月 日 ()											
第 1 日		受付開始	ソ リ エ ン ツ の 研 修 に ヨ	§ C-1 ちかいと おきて (カブスカウトの やくそくとときまり)	§ C-2 年代の特性と プログラム	§ C-3 カブスカウ ト隊の集会	屋 食	§ C-4 カブ隊のプログラム プロセスと年間計画	§ C-5 年間プログ ラム計画	§ C-6 プログラ ムの実施計画	閉 会 式 30

ウッドバッジ研修所 ボーイスカウト課程別研修 日程表

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月 日 ()											
第 1 日		受付開始	ソ リ エ ン ツ の 研 修 に ヨ	§ S-1 年代の特性と プログラム	§ S-2 班制教育と進 歩制度	屋 食	§ S-3 年間プログラムと 月間プログラム	§ S-4 個人の進歩 個人の進歩	§ S-5 隊の プログラ ム	閉 会 式 30	

ウッドバッジ研修所 ベンチャースカウト課程別研修 日程表

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月 日 ()											
第 1 日		受付開始	ソ リ エ ン ツ の 研 修 に ヨ	§ V-1 年代の特性と プログラム	§ V-2 隊運営とグ ループワーク	屋 食	§ V-3 プログラムプロセスと活 動計画	§ V-4 個人の進歩 個人の進歩	§ -5 評価と認定	閉 会 式 30	

セッションの目標

ウッドバッジ研修所スカウトコース

§1 ウッドバッジ研修所について
1. ウッドバッジ研修所の目的と日程について理解する。
2. ウッドバッジ研修所の運営方法について理解する。
§2 基本動作
1. 基本動作・礼式の基準に応じた各種動作ができる。
2. 各種動作の開始合図ができる。
3. 国旗の取り扱いと掲揚、降納ができる。
§3 スカウト技能
I (野営技能) (設営を含む)
1. 設営におけるテント類の取り扱いができる。
2. スカウトキャンプにおけるサイトの設計について理解する。
3. スカウトキャンプに必要な野営工作物について理解する。
4. 設営の方法と手順を理解する。
5. 野外活動の意義と重要性を理解する。
II (野営技能) (撤営)
1. 撤営におけるテント類の取り扱いができる。
2. 撤営の方法と手順を知る。
§4 野外炊事
1. スカウトキャンプの献立を理解する。
2. スカウトキャンプの日程やプログラムに関連した炊事を行うことができる。
§5 スカウト運動
1. スカウト運動の定義、目的、原理、方法について理解する。
2. ボーイスカウト日本連盟の教育の目的、基本方針を理解する。
3. 「ちかい」と「おきて」について理解する。
4. 「セーフ・フロム・ハーム」について理解する。
§6 夜のプログラム
I 夜間ゲーム
1. 夜間ゲームの教育的効果を理解する。
2. スカウトキャンプにおける夜間ゲームができる。
II キャンプファイア
1. キャンプファイアの教育的効果を理解する。
2. ボーイスカウト部門のキャンプファイアプログラムについて理解する。
3. スカウトキャンプにおけるキャンプファイアができる。
III 歓迎の営火 (基本型のみ)
1. 歓迎の営火の教育的効果を理解する。
2. 歓迎の営火のプログラムについて理解する。
3. スカウトキャンプにおける歓迎の営火ができる。

§7 スカウト活動における安全
1. 安全の考え方を理解する。
2. スカウトに対する安全教育の方法を理解する。
3. プログラム活動における安全 対策 について理解する。
4. プログラム活動における安全 管理 について理解する。
§8 班長訓練
1. 班長訓練の意義と重要性を理解する。
2. 班長訓練における隊長の役割を理解する。
3. 班長訓練計画書に基づいた班長訓練を体験する。
§9 班集体会
1. 班の活動がスカウト活動の中心であることを理解する。
2. 班長の役割について理解する。
3. 班や隊の活動に必要な技能について体験する。
§10 スカウト教育法
1. スカウト教育法を理解する。
2. スカウト教育法とプログラムの関連について理解する。
§11 班の活動（班ハイク）
1. 班の活動がボーイスカウト部門の活動の基本であることを理解する。
2. 班の活動がスカウトの個人的成長の場であることを理解する。
3. 班の活動（班ハイク）を体験する。
§12 隊集会
1. 隊活動における隊長の役割と責務を理解する。
2. 隊活動と班活動の違いと関連性について理解する。
3. ボーイスカウト部門の隊集会を体験する。
§13 安全の運用
1. 危機管理体制の構築と運用について理解する。
2. 保護者や対外関係者への対応について理解する。
3. そなえつねに共済と賠償責任保険について理解する。
4. 「セーフ・フロム・ハーム」の対応について理解する。
§14 隊指導者の役割と責務
1. 隊の運営（進歩の管理・保護者との連携・会計業務・事務手続き、資産管理）について理解する。
2. 任務中の支援（インサービス・サポート） について理解する。
3. 隊指導者、団会議、団委員会、各種コミッショナーとの連携について理解する。（安全を含めた、隊活動全般について）
4. 役割と責務を果たすために継続的な自己研修の必要性を理解する。
5. 隊指導者 の役割と責務について理解する。

ビーバースカウト課程	
§ BVS-1	<p>ちかいとおきて（ビーバースカウトのやくそくときまり）と年代の特性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」と「ちかい」と「おきて」の関連を理解する。 2. ビーバースカウトが日常生活の中で、ビーバー隊の「きまり」が実行できるように支援できる。 3. ビーバースカウト年代の特性について理解する。
§ BVS-2	<p>ビーバースカウト隊のプログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビーバースカウト部門の進歩制度とプログラムの関係を理解する。 2. ビーバースカウト部門のプログラムプロセスについて理解する。 3. 柔軟性のあるプログラムが必要なことを理解する。
§ BVS-3	<p>隊集会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 隊集会プログラム（隊集会実施計画書）に基づき実施される隊集会の流れを理解する。 2. 隊集会の評価について理解する。
§ BVS-4	<p>プログラム開発と年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 隊活動に必要なプログラムのヒントを知る。 2. プログラム開発の必要性を理解する。 3. スカウト技能をビーバースカウト年代の特性に合わせてプログラムにアレンジできる。 4. 年間プログラムの作成ができる。
§ BVS-5	<p>隊集会プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 隊集会プログラム（実施計画書）を作成できる。 2. プログラムの中で進歩制度を活用できる。

カブスカウト課程	
§ CS-1	<p>ちかいとおきて（カブスカウトのやくそくとさだめ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウトの「やくそく」を理解する。 2. カブ隊の「さだめ」を理解する。 3. カブスカウトが日常生活の中で、カブ隊の「さだめ」が実行できるように支援できる。
§ CS-2	<p>年代の特性とプログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウト年代の特性を理解する。 2. カブスカウト年代のあこがれや興味を理解する。 3. カブスカウト年代の青少年を取り巻く環境を理解する。
§ CS-3	<p>カブスカウト隊の集会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 隊集会プログラム（隊集会実施計画書）、組長集会、組集会プログラム（組集会実施計画書）に基づき実施される隊集会、組長集会、組集会の流れを理解する。 2. 各集会の評価について理解する。
§ CS-4	<p>カブ隊のプログラムプロセスと年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウト隊のプログラムプロセスを理解する 2. プログラム委員の目的と役割を理解する。 3. カブスカウト隊の進歩制度とプログラムの関係を理解する。 4. 年間プログラムの作成について理解する。
§ CS-5	<p>月間プログラム計画（リーダー集会）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーダー集会の目的を理解する。 2. 月間プログラムが作成できる。
§ CS-6	<p>プログラムの実施計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 隊集会実施計画書、組集会実施計画書作成の作成について理解する。 2. 隊長は他の指導者の協力を得て、隊集会を主宰することを理解する。

ボーイスカウト課程

§ B S - 1 年代の特性とプログラム

1. ボーイスカウト年代の青少年の特性・ニーズを知る。
2. 生活環境が青少年の考え方、行動、興味等に影響を与えることを理解する。
3. ボーイスカウト部門の活動目標を理解し、目標達成にはスカウトの参画が重要であることを認識する。

§ B S - 2 班制教育と進歩制度

1. ボーイスカウト部門の班制教育の機能について理解する。
2. ボーイスカウト部門の進歩制度を正しく運用する方法を理解する。
3. スカウト教育の方法である班制教育と進歩制度の関連を理解する。

§ B S - 3 年間プログラムと月間プログラム

1. スカウト活動におけるプログラムの重要性和プログラムサイクルについて理解する。
2. 年間プログラム策定プロセスと活動計画との関連を理解する。
3. 年間プログラムに基づいて月間プログラムが策定できる。

§ B S - 4 個人の進歩

1. 青少年一人ひとりが自分自身の発達を意識し、積極的に関わることを理解させる。
2. スカウトが自分自身で個人的な発達目標を立て実行するために、指導者の支援について理解させる。
3. 進歩に対して適正に評価し、認証することの重要性を理解する。

§ B S - 5 隊のプログラム

1. 隊の様々なプログラムの役割と機能について理解する。
2. ボーイスカウト部門のプログラム展開で指導者が果たすべき役割を理解する。

ベンチャースカウト課程

§ V S - 1 年代の特性とプログラム

1. ベンチャースカウト年代の青少年の特性を理解する。
2. ベンチャースカウト年代の青少年を取り巻く環境を理解する。
3. ベンチャー部門の教育、活動の目標を理解し、スカウトの興味・関心事をプログラムに昇華できる。

§ V S - 2 隊運営とグループワーク

1. ベンチャー隊の組織構成について理解する。
2. ベンチャー隊運営について理解する。
3. ベンチャー部門における班制教育（グループワーク）の方法について理解する。

§ V S - 3 プログラムプロセスと活動計画

1. ベンチャースカウト部門のプログラムプロセスを理解する。
2. 年間プログラムの作成手順を理解する。
3. 活動プログラムの作成手順を理解する。

§ V S - 4 個人の進歩

1. ベンチャースカウトの進歩制度を理解し、スカウト個々の成長のための支援ができる。
2. プロジェクトの概要、取り組み方、プログラムへの適用の意義を理解する。
3. 信仰奨励章、宗教章制定の趣旨と取得の方法について理解する。

§ V S - 5 評価と認定

1. 活動プログラムの各段階における評価ができる。
2. 進級課目の認定ができる。

ウッドバッジ研修所スカウトコース 課題研修

課 題

課題 1.

世界スカウト機構発行資料「スカウト教育法（2019 対訳版）」、「日本連盟規程集」（最新の年度版）教育規程第 1 章一般原則を読み、指導を受けた内容を記述してください。

課題 2.

「スカウティング・フォア・ボーイズ」の第IX章、第III章、第I章、第II章の順番に熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

課題 3.

スキルトレーニングにおいて以下の細目を履修し、指導を受けた内容を記述してください。

(1) ロープワーク

- ・本結び、もやい結び、巻き結び、ねじ結び、引きとけ結び、角しばり、筋かいしばり

(2) 地図とコンパス

- ・16方位と方位角の呼び方を覚え、プレートコンパス（シルバコンパス）を使用することができる。

(3) 刃物の取り扱い

- ・ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。

(4) 野営技能

- ・家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。
- ・フライテント（タープテント）の設営、撤営と維持管理ができる。
- ・班の炊事に適する2種以上のかまどを使い薪で炊事ができる。

ウッドバッジ研修所課程別研修 課題研修

課 題

課題 1.

当該隊リーダーハンドブックを熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

※ベンチャースカウト課程はスカウトハンドブックアドバンスも熟読する。

セッションの運営

(スカウトコース)

§ 1 ウッドバッジ研修所について

第1日 10:45～11:45 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ウッドバッジ研修所の目的と日程について理解する。
2. ウッドバッジ研修所の運営方法について理解する。

指導上のねらい

1. ウッドバッジ研修所で取り扱う内容と取り扱わない内容について理解させる。
2. ウッドバッジ研修所の学習方法と進め方について理解させ、研修意欲を持たせる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

(1) 研修所の目的と目標、セッションの組み立てについて

- ①目的、目標の説明
- ②研修所で取り扱うものと取り扱わないもの
- ③セッションの組み立て ※日程表参照

(2) 研修所の運営方法について

- ①スカウトコースとしての研修と部門の取り扱いについて
- ②学習と実習について
- ③所員の役割について
- ④研修所におけるキャンプ生活と点検について
- ⑤基本動作について

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 研修における学習効果を高めるために、このセッションで研修意欲を引き出すよう留意して進める。
- (2) 当該研修所の進め方の基本となるセッションであるため所長が担当する。

3. その他確認事項

質疑応答を行い、運営や研修の進め方について質問を受け、参加者の理解を深めるとともに参加者の意識を確認する。

隊編成式からの続きであり、オリエンテーション、§ 2 基本動作と連続する事から、野外でのセッション展開ができるよう工夫する。

§ 2 基本動作

第1日 13:00～14:30 (90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 基本動作・礼式の基準に応じた各種動作ができる。
2. 各種動作の開始合図ができる。
3. 国旗の取り扱いと掲揚、降納ができる。

指導上のねらい

1. 隊指導者として、スカウトの規律、スマートネスの基準維持の導入的位置付けとして、日本連盟の基本動作・礼式の基準に応じた動作を正しくできるようにする。
2. 同様に動作開始合図を出すことができるようにする。
3. 班旗・班呼の取り扱いについて実際に体験し、理解させる

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟発行資料「基本動作・礼式の基準」改訂版
- ・模擬掲揚柱、模擬国旗（掲揚用）、模擬隊旗、模擬班旗、その他模擬記章類等

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

(1) 基本動作の必要性と有用性について教育面、安全面、規律等の観点から説明する。

(2) 以下の動作と開始合図を行う。(号令、ホイッスルでの合図)

基本動作

- ①気をつけ、休め、すわれ
- ②敬礼、立礼
- ③方向転換（まわれ右、右向け右、左向け左）
- ④握手、スカウトサイン、祝声

集散法

- ①集合1 U字形、円形および解散
- ②集合2 班縦隊、班横隊から片手間隔横隊および解散

国旗掲揚法

- ①国旗を広げて掲揚する方法および降納

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) スカウト活動独特の動作・基準なので、不慣れな参加者がいることを認識し、親切丁寧に指導する。
- (2) 参加者の団においては多少異なる合図や動作をしている場合があるので、研修所では日本連盟の基本動作・礼式基準に則り研修するが、隊においては必ずしもこの限りではない場合があることを伝える。
- (3) 隊編成においても、研修所での研修効果を高めるための隊編成であることを伝え、通常の隊活動における隊編成と異なる点を伝える。
- (4) 隊活動のけじめをつける意味で、重要な教育要素である。
- (5) 日常よく使う動作なので、研修所の期間中、留意して覚えるようにする。

- (6) 身振りでの開始合図は隊指導者としてスムーズに行う。
- (7) 国旗の取り扱いについては、慎重かつ丁寧に取り扱い、スムーズに行う

3. その他確認事項

本セッションの内容はコース中、班担当所員が随時支援を行う。

§ 3 - I スカウト技能（野営技能・設営を含む）

第1日 14:30～16:30（120分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 設営におけるテント類の取り扱いができる。
2. スカウトキャンプにおけるサイトの設計について理解する。
3. スカウトキャンプに必要な野営工作物について理解する。
4. 設営の方法と手順を理解する。
5. 野外活動の意義と重要性を理解する。

指導上のねらい

1. スカウトキャンプの標準的なサイト設計、テントの取り扱い、野営工作物の作成、設営方法を理解させる。
2. スカウトキャンプでの役割分担と班制教育とのかかわりについて理解させる。
3. 野外活動の楽しさと安全には野営技能の修得が必須であることを伝える。
4. すべての参加者が設営を含む野営技能が体得できるよう実技指導を行う。

準備品(資材・資料)

- ・班サイト設営に必要な資材一式
- ・設営手順書
- ・備品リスト
- ・サイト設計図

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 設営に関する指示（オリエンテーション）を行う。
設営手順書、備品リスト配布
- (2) 備品配布
- (3) サイト設計図確認（班担当所員があらかじめ作成したもの）
- (4) 設営作業分担
- (5) 設営作業

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) セッション担当者はセッション運営要項を作成し、設営指示を行う。
- (2) 各班の設営作業は、各班担当所員がすべての実技指導をおこなう。
- (3) サイト設計は、参加者が自ら考えるよう導くこと。
- (4) 就寝用に家型テントを使うこと。
- (5) 班ごとに指導内容に違いが出ないようにあらかじめセッション担当者と班担所員は実技内容に関して綿密な打ち合わせを行っておく。

3. その他確認事項

サイト設計図は野営場の特性を考慮し、あらかじめ各班担当所員で作成し説明する。
§ 3-I と § 4-I は連続して作業が行えるよう、セッションで伝えるべき事項に関して、最初に一括して伝えるなど工夫をする。

§ 3 - II スカウト技能（野営技能・撤営）

基本型 第4日 10:30～13:00（150分）

一括型 第4日 7:30～10:00（150分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 撤営におけるテント類の取り扱いができる。
2. 撤営の方法と手順を理解する。

指導上のねらい

1. スカウトキャンプの標準的な撤営方法を理解させる。
2. キャンププログラムにおける撤営の教育的意義を理解させる。
3. 撤営作業は次の活動へのつながりになることを理解させる。
4. すべての参加者が撤営を含む野営技能が体得できるよう実技指導を行う。

準備品（資材・資料）

- ・撤営手順書
- ・備品リスト

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 撤営に関する指示（オリエンテーション）を行う。
撤営手順書、備品リスト配布
- (2) 撤営作業分担
- (3) 撤営作業

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) セッション担当者はセッション運営要項を作成し、撤営指示を行う。
- (2) 各班の撤営作業は、各班担当所員がすべての実技指導をおこなう。
- (3) 班ごとに指導内容に違いが出ないようにあらかじめセッション担当者と班担当所員は内容に関して綿密な打ち合わせを行っておく。

3. その他確認事項

§ 4 野外炊事

I	第1日	16:30~18:30	(120分)
II	第2日	12:00~13:30	(90分)
III	第2日	17:00~19:00	(120分)
IV	第3日	11:30~13:00	(90分)
V	第3日	17:00~19:00	(120分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウトキャンプの献立を理解する。
2. スカウトキャンプの日程やプログラムに関連した炊事を行うことができる。

指導上のねらい

1. キャンプにおける食品の取り扱いと献立について理解させる。
2. キャンププログラムに適応した献立について理解させる。
3. キャンププログラムと野営場に適したかまどの作成及び使用について理解し、実施させる。
4. 日程に適した炊事方法について理解し、実施させる。
5. 刃物と火の取り扱いについて理解し、実施させる。

準備品(資材・資料)

- ・ 食材配給一覧 (セッション担当があらかじめ作成したもの)
- ・ 献立表 (セッション担当があらかじめ作成したもの)
- ・ 炊具・かまど資材
- ・ 食材

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 資材・資料の配布を行う。
- (2) 作業分担を行う。
- (3) かまどの製作、炊事を行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) セッション担当者はセッション運営要項を作成する。
- (2) 各班の炊事作業は、各班担当所員がすべての実技指導を行う。また、班担当所員は班で一緒に食事をとること。
- (3) 班ごとに指導内容に違いが出ないようにあらかじめセッション担当者と班担当所員は実技内容に関して綿密な打ち合わせを行っておく。

3. その他確認事項

- 刃物と火の取り扱いに留意する。

§ 5 スカウト運動

第1日 18:30～19:30 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウト運動の定義、目的、原理、方法について理解する。
2. ボーイスカウト日本連盟の教育の目的、基本方針を理解する。
3. 「ちかい」と「おきて」について理解する。
4. 「セーフ・フロム・ハーム」について理解する。

指導上のねらい

1. 世界スカウト機構規約（憲章）第1章スカウト運動により、スカウト運動とは何かを理解させる。
2. 日本連盟の「目的」と「基本方針」は、世界スカウト機構規約（憲章）に則していることを理解させる。
3. 原理を反映した「ちかい」と「おきて」をスカウト一人ひとりが受け入れ、実践することで成長する核であることを理解させる。また、スカウト章、モットー、スローガンを理解させる。
4. 安全で安心した活動のために、スカウト運動では「セーフ・フロム・ハーム」に取り組んでいることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・世界スカウト機構発行資料 スカウト教育法（2019 対訳版）
- ・世界スカウト機構発行資料 スカウティングの本質的特徴（2019 翻訳版）
- ・セーフ・フロム・ハーム ガイドブック

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) スカウト運動とは何か
 - ①世界スカウト機構規約（憲章）第1章スカウト運動について
- (2) 日本連盟教育規程との関係
 - ①日本連盟の教育の目的、基本方針
- (3) 「ちかい」と「おきて」
 - ①「ちかい」と「おきて」は、原理に基づいて教育の年代に応じて表現されている、スカウトの行動と目指す姿の基本である。
 - ②「ちかい」は「おきて」を受け入れ、遵守に最善を尽くし、自身の発達に責任を有することを約束する。
 - ③「おきて」は、積極的な生活の行動規範である。
 - ④「おきて」を守り日常生活を送ることは、スカウト活動の基盤である。
 - ⑤日本連盟のスカウト章、モットー、スローガン
- (4) 「セーフ・フロム・ハーム」について
 - ①「セーフ・フロム・ハーム」の内容を理解させる。
 - ②「セーフ・フロム・ハーム」の取組みの継続と理解促進のために、セミナーについて知らせる。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 資料に表現されている意味を簡潔な言葉で解説していくこと。
- (2) スカウト教育法の要素、プログラムとの関連の具体的な内容は § 10 で学習する。

3. その他の確認事項

§ 6 - I 夜のプログラム（歓迎の営火）

基本型 第1日 19:30～20:30（60分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 歓迎の営火の教育的効果を理解する。
2. 歓迎の営火のプログラムについて理解する。
3. スカウトキャンプにおける歓迎の営火ができる。

指導上のねらい

1. 歓迎の営火の基本的な要素について理解させる。
2. 歓迎の営火を通して、「ちかい」と「おきて」の実践を示唆する場であることを理解させる。
3. これからの野営生活、班での活動、隊長としての研修についての心構えを持たせる。

準備品(資材・資料)

- ・薪組み、防火用水、スコップ、トーチ等キャンプファイアで使用するもの
- ・キャンプファイア計画書

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) このセッションは、歓迎の営火の基本的要素をプログラムを通して体験させる。
- (2) 実習は、ボンファイアを想定して行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 歓迎の営火の基本的な要素
 - ①実施における役割分担
 - ②プログラム等の組み立て
 - ③薪組の種類と効果

3. その他の確認事項

§ 6 - II 夜のプログラム（夜間ゲーム）

基本型 第2日 19:00～20:30（90分）

§ 6 - I 夜のプログラム（夜間ゲーム）

一括型 第1日 19:30～20:30（60分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 夜間ゲームの教育的効果を理解する。
2. スカウトキャンプにおける夜間ゲームができる。

指導上のねらい

1. 教育効果を取り入れた夜間ゲームについて理解させる。
2. ゲームはスカウト技能の実践の場であることを理解させる。
3. 昼間と夜間の環境の違いにおけるゲームの効果の違いを理解させる。
4. ゲームには班制教育と進歩が含まれることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・夜間ゲーム実施要項
- ・夜間ゲーム資材

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 夜間ゲームについてのオリエンテーションを行う。
- (2) ゲームを実施する。
- (3) 表彰を行う。
- (4) 指導者としての評価反省を行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) セッション担当者はセッション運営要項及びゲーム実施要項、資材の準備を行う。
- (2) 夜間における安全対策を行う。
- (3) ゲームにおけるスカウト技能と進歩関連を明確にしておく。
- (4) 感覚を研ぎ澄まし野外でゲームを行う事が、スカウトの成長とスカウトキャンプには必要である事を伝える。

3. その他確認事項

ねらいと留意点を伝えるためにまとめを行う。

§ 6 - III 夜のプログラム (キャンプファイア)

基本型 第3日 19:00~20:30 (90分)

§ 6 - II 夜のプログラム (キャンプファイア)

一括型 第2日 19:00~20:30 (90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. キャンプファイアの教育的効果を理解する。
2. ボーイスカウト部門のキャンプファイアプログラムについて理解する。
3. スカウトキャンプにおけるキャンプファイアができる。

指導上のねらい

1. スカウティングにおけるキャンプファイアの教育的意義を理解させる。
2. キャンプファイアの基本的な要素について理解させる。
3. キャンプファイアの体験を通して、「ちかい」と「おきて」の実践を示唆する場であることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・薪組み、防火用水、スコップ、トーチ等キャンプファイアで使用するもの
- ・キャンプファイア計画書

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) このセッションは、キャンプファイアの教育的意義と基本的要素について学習させ、キャンプファイアの基本的プログラムを体験させる。
- (2) キャンプファイアの実習は、ボーイスカウト隊夏季キャンプのキャンプファイアを想定して行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 教育的意義
 - ①火の持つ効果
 - ②スカウト教育への活用
 - ③夜話の重要性
 - ④信仰への導き
- (2) キャンプファイアの基本的な要素
 - ①実施における役割分担
 - ②プログラム等の組み立て
 - ③薪組みの種類と効果

3. その他の確認事項

§ 7 スカウト活動における安全

第2日 9:00～10:00 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 安全の考え方を理解する。
2. スカウトに対する安全教育の方法を理解する。
3. プログラム活動における安全対策について理解する。
4. プログラム活動における安全管理について理解する。

指導上のねらい

1. 安全を確保するには、安全教育・安全管理・安全対策が必要であることを知らせる。
2. 安全管理（事故発生前の対応）と危機管理（事故発生直後の対応）の考え方について整理し、理解させる。
3. 年代の特性や個人の特性に応じた安全教育が必要であることを理解させる。
4. ボーイスカウト部門においては技能訓練が安全技能の教育と大きく関連していることを認識させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟発行書籍「安全ハンドブック」
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 安全の考え方について
- (2) 安全教育について
- (3) 安全対策について
- (4) 安全管理について
- (5) 安全計画（グループ作業を行う。隊、団双方の立場から作業する。評価を含む。）

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 安全を強調するあまり、体験的冒険を排除することが無いように留意する。
- (2) スカウトに対する安全教育だけでなく、隊の指導者や保護者に対する安全教育の必要性も考える。
- (3) 具体的な活動項目を示しながら進める。
- (4) 日本連盟発行書籍「安全ハンドブック」を活用する。

3. その他確認事項

- (1) 安全の確保は、この年代の青少年の特性を知り、一人ひとりの状況をよく観察することが必要である。
- (2) 安全教育は、隊長の責務である。
- (3) 安全教育は特別なものではなく、楽しいスカウト活動を展開する過程で行われるものである。

§ 8 班長訓練

第2日 10:00～12:00 (120分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 班長訓練の意義と重要性を理解する
2. 班長訓練における隊長の役割を理解する。
3. 班長訓練計画書に基づいた班長訓練を体験する。

指導上のねらい

1. 隊長は班長の教育と班活動の支援によってスカウトの個人的成長を促すことを理解させる。
2. 隊長は班長訓練を通じて班を育てる責任があることを理解させる。
3. 隊長は班長それぞれの成長過程に沿った適切な指導ができることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック
- ・「班長訓練実施計画書」
- ・「班長会議実施計画書」
- ・「隊集会計画書」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 班長訓練、班長会議の位置づけと意義を理解させる。
- (2) § 12 隊集会の「実施計画書」を説明し、それに基づく班長訓練、班長会議についての説明。
- (3) 班長訓練計画書により実際に班長訓練を行う。
- (4) 班長会議計画書により実際に班長会議を行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 隊長は班長を育てること、班長は班員を育てることを実施する。
- (2) 班制教育と進歩制度の両立を図るプロセスを展開する。
- (3) 班長訓練を通じてちかいとおきてを実践する。
- (4) スカウト活動の魅力は班活動の楽しさであることを体験する。

3. その他確認事項

- (1) 隊長は班長に対して何をすべきか、班長は班員に対して何をすべきか、理解しなければならない。
- (2) 隊長はスカウト一人ひとりに対して何をすべきか、理解しなければならない。
- (3) 班活動が自主的に活発に行われるようにするには、隊長はどのように関わるか理解しなければならない。
- (4) 隊長は班長が班員を訓練するために、どのように関わるかが重要である。
- (5) スカウトらしい班長を育てることが重要である。

※班担当所員が隊長役、参加者が班長役で班毎に班長訓練、会議を行う。

§ 9 班集会

第2日 13:30～15:30 (120分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 班の活動がスカウト活動の中心であることを理解する。
2. 班長の役割について理解する。
3. 班や隊の活動に必要な技能について体験する。

指導上のねらい

1. 隊集会に向けた技能訓練を確実に行うことが重要であることを理解させる。
2. 様々なプログラムに向けた準備や演習の場であることを理解させる。
3. 班独自の活動の計画や準備の場であることを理解させる。
4. 班の活動を楽しめることができることが班の運営や個人の進歩成長につながることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・「班集会計画書」
- ・「キャンプファイア計画書」
- ・「班ハイク計画書(フォーマット)」

セッション運営要項作成にあたって

このセッションは隊長役の所員が行う。

1. セッションの概要
 - (1) 班集会、班会議の位置づけと意義について理解させる。
 - (2) 班集会計画書に基づき、隊集会に向けた技能訓練、班ハイクの計画書作成を行う。
 - (3) 報告書の例示と指導者としての評価について理解させる。
 - (4) 班で計画したプログラムを実現するのに指導すべきポイントを確実に伝える。

2. 訓練目標を達成するための留意点
 - (1) 集会実施にあたっては班担当所員が全面的に支援を行う。
 - (2) 隊長としての支援の観点も同時に考えながら集会を行う。
 - (3) 班ハイクに必要な情報をわかりやすくまとめておく。

3. その他確認事項
 - (1) このセッションは隊長役の所員が行う。
 - (2) 班の中の参加者1人が班長役となる。
 - (3) 班担当所員は支援を行う。

§ 10 スカウト教育法

第2日 15:30～17:00 (90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウト教育法を理解する。
2. スカウト教育法とプログラムの関連について理解する。

指導上のねらい

1. スカウト教育法は自ら研鑽を重ね進歩するシステムであることを理解させる。
2. スカウト教育法は8つの要素が相互作用することで1つのシステムとして形成しバランスが取れていることを理解させる。
3. スカウト教育法とプログラムの関連について理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・世界スカウト機構発行資料 スカウト教育法 (2019 対訳版)
- ・世界スカウト機構発行資料 スカウティングの本質的特徴 (2019 翻訳版)
- ・おきて指導の手引き

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

(1) スカウト教育法

- ①スカウト教育法を構成する8つの要素
- ②スカウト教育法の中心には「ちかい」と「おきて」が常に存在する。
- ③スカウト教育法とプログラムの関係

2. 訓練目標を達成するための留意点

(1) スカウト教育法の各要素を、具体的な活動イメージと関連させた内容で伝える。

- ①研修中での生活やセッション展開などの内容、体験を振り返りながらイメージさせて理解させる。
- ②一つの活動(行事)にすべての要素を取り込むのではなく、月間の活動または年間の活動の中で各要素のバランスを考えて行なうことが必要である。

3. その他の確認事項

§ 1 1 班の活動（班ハイク）

第3日 9:00～11:30（150分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 班の活動がボーイスカウト部門の活動の基本であることを理解する。
2. 班の活動がスカウトの個人的成長の場であることを理解する。
3. 班の活動（班ハイク）を体験する。

指導上のねらい

1. 隊長は、班長が班集会の計画・実施・評価できるよう指導ができる。
2. 隊長として、班の活動を促進するために何をすべきか理解させる。
3. 班の活動を楽しくできることが班の運営や個人の進歩成長につながることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ § 9 で作成した「班ハイク計画書」
- ・ ハイキングに必要な資材

セッション運営要項作成にあたって

このセッションは隊長役の所員が行う。

1. セッションの概要

- (1) § 9 で作成した班ハイク計画書に基づき班ハイクを行う。
- (2) 班ハイク報告書を作成し、評価を行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 班の活動（隊集会に向けたスカウト技能が含まれた活動等）を実施・展開・評価する。
- (2) 班員の進歩成長を振り返り、次につなげるために何が必要かを伝える。
- (3) 班長は班の活動を評価し、次につなげるために何が必要かを伝える。
- (4) 計画されている隊集会に対する班の活動であることを確認する。

3. その他の確認事項

- (1) 班ハイクでは、ワークショップなどの方法により実施しないこと。
- (2) 班ハイクに班担当所員は同行しない。
- (3) 班ハイク実施にあたっては、出発前のサイト整備や出発の準備状況を隊スタッフが確認し、出発、帰着に関しては隊長の許可が必要となる。

§ 1 2 隊集会

第3日 13:00～16:00 (180分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊活動における隊長の役割と責務を理解する。
2. 隊活動と班活動の違いと関連性について理解する。
3. ボーイスカウト部門の隊集会を体験する。

指導上のねらい

1. 隊活動は班活動の積み重ねの場と位置づけるようにする。
2. 班活動の結果が隊活動に活かされるよう隊集会を工夫できるようにする。
3. 隊活動における隊長の役割を理解させ、自己研鑽の必要性を認識させる。

準備品(資材・資料)

- ・「隊集会計画書」

セッション運営要項作成にあたって

このセッションは隊長役の所員が行う。

1. セッションの概要

- (1) 隊集会計画書にもとづき隊集会を実施する。
- (2) 隊集会でスカウト技能と班集会・班活動の成果が発揮できる隊集会の展開を行う。
- (3) 隊活動を通じて「ちかい」と「おきて」を実践する。
- (4) 隊集会の実施評価とともに班長訓練、班集会、班ハイクの評価を行う。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 隊集会は班活動の成果発表の場として、スカウトの成長を促す。
- (2) ボーイスカウトのプログラムの一環としての隊集会の重要性を意識する。
- (3) 隊集会ではスカウト一人ひとりが次にまた頑張るよう励ます。

3. その他の確認事項

これまで行った、§ 8・9・11・12の振り返りとまとめを行う。

§ 1 3 安全の運用

第3日 16:00～17:00 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 危機管理体制の構築と運用について理解する。
2. 保護者や対外関係者への対応について理解する。
3. そなえつねに共済と賠償責任保険について理解する。
4. 「セーフ・フロム・ハーム」の対応について理解する。

指導上のねらい

1. 安全教育～安全管理までは不可抗力による災害を想定する必要はないが、危機管理の段階においては不可抗力による災害の発生も考慮に入れる必要があることを理解させる。
2. 危機管理体制の構築（団・県連盟・日本連盟）についてその必要性と、危機管理体制が果たすべき機能について隊指導者として何をすべきかを理解させる。
3. 事故発生後の対応と関係者の過失責任について理解させる。
4. そなえよつねに共済と損害賠償保険の内容について理解させる。
5. 「セーフ・フロム・ハーム」のガイドラインと対応について理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック
- ・日本連盟発行書籍「安全ハンドブック」
- ・そなえよつねに共済・賠償責任保険手引き (<http://www.scout.or.jp/kyosai/index.html>)
- ・「セーフ・フロム・ハーム」ガイドライン、
「セーフ・フロム・ハーム県連盟対応ガイドライン」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 危機管理の本質
- (2) 管理の責任
- (3) 危機管理を実施する場面
- (4) 危機管理体制の構築（団・県連盟・日本連盟）の理解
- (5) 保護者や対外関係者への対応
- (6) 傷害補償と賠償責任保険
- (7) そなえよつねに共済について
- (8) 加入手続きと事故発生後の手続き
- (9) 「セーフ・フロム・ハーム」の対応

2. 訓練目標を達成するための留意点

隊指導者として、安全に関する対応が重要であることを理解させる。

- (1) 危機管理体制はその機能を中心に論じる。ポイントは危機管理体制組織ではなく、機能を果たすことが目的であることを明確にする。(団の事情、地域の状況によって、組織体制は柔軟に構築するほうが機能的である。)
- (2) 共済制度の免責事項について説明する。
- (3) 賠償責任保険は団や指導者側に過失が認められる場合に支払われることを説明する。
- (4) 「セーフ・フロム・ハーム」のガイドラインを受容し、隊指導者として団委員長や地区コミッショナー、県連盟コミッショナーと協働して対応にあたることを理解しておく。

3. その他の確認事項

- (1) 万が一不幸にして事故が起こってしまった時、冷静にかつ迅速に行動するためには危機管理計画、危機管理体制が必要である。
- (2) 団と協働して対処するように、日ごろから安全や事故対策についての話し合いをしておく。特に事故が起こってしまった時に「誰が」「何をするか」をそのプログラムごとに確認しておく事が大切である。

§ 1 4 隊指導者の役割と責務

基本型 第4日 9:00～10:30 (90分)
 一括型 第3日 19:00～20:30 (90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊の運営（進歩の管理・保護者との連携・会計業務・事務手続き、資産管理）について理解する。
2. 任務中の支援（インサービス・サポート）について理解する。
3. 隊指導者、団委員、各種コミッショナーとの連携について理解する。（安全を含めた、隊活動全般について）
4. 役割と責務を果たすために継続的な自己研修の必要性を理解する。
5. 隊指導者の役割と責務について理解する。

指導上のねらい

1. 隊指導者としての任務遂行の意欲を高めさせる。
2. 隊指導者としてたゆまぬ自己研鑽が必要であることを理解させる。
3. 隊指導者として円滑に任務を遂行するために、団、地区等との連携が重要であることを理解させる。
4. 任務中の支援（インサービス・サポート）の内容について説明し、理解させる。

準備品（資材・資料）

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・隊指導者上級訓練課程「課題研究」用紙

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 隊指導者の役割と責務および心構えのまとめ

①セッションで学習したことを再確認し、ふりかえりを行い、役割と責務についてまとめる。

- (2) これからの研修の継続について

- ①さまざまな研修の場を活用し、自己研鑽を続けていくことを理解させる。
- ②上級訓練を修了することが必要であることを理解させる。

- (3) 隊の運営について

- ①隊の運営の具体的な事例と手続きを理解させる。
- ②隊の運営について協力者が必要であることを理解させる。

- (4) 任務中の支援（インサービス・サポート）

指導者は、任務遂行中に研修所などの定型訓練だけで学ぶのではなく、各種の研修の機会が提供される。そのような機会に指導者は積極的に参加することが重要である。

- (例) 団や先輩指導者からの日常的な支援
 各種定型外訓練、スキルトレーニング
 コミッショナーにより支援される個別の課題解決、等々

- (5) 質疑応答

①この研修所での学習に関することについての質疑を受ける。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) このセッションでこれまで学習してきたことのふりかえりを行い、整理をさせる。
- (2) このセッションは参加者が自隊に戻り、隊長として任務を遂行することへの動機を高めるセッションであることに留意する。
- (3) 参加者の気持ちを研修での学習から、実際の自隊での活動に向けたものに切り替えさせることに留意する。
- (4) この研修を終え、いよいよ自隊に戻り、実際にやっていくことに意欲を沸き立たせるようにする。
- (5) 今後のたゆまぬ研鑽をお願いするとともにウッドバッジ実修所（上級訓練）を紹介し参加を勧める。

3. その他の確認事項

セッションの運営

(課程別研修)

ビーバースカウト課程

§ BVS-1 ちかいとおきて（ビーバースカウトのやくそくときまり）と年代の特性

（60分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」と「ちかい」と「おきて」の関連を理解する。
2. ビーバースカウトが日常生活の中で、ビーバー隊の「きまり」が実行できるように支援できる。
3. ビーバースカウト年代の特性について理解する。

指導上のねらい

1. 「ちかい」・「おきて」とビーバースカウトの「やくそく」・ビーバー隊の「きまり」（以下「やくそく」と「きまり」と略）の関連を理解させる。
2. 活動の中で、スカウトが実践できるように指導（支援）することは、隊長としての任務であることを理解させる。
3. ビーバースカウトに対する「やくそく」と「きまり」の指導は、日常生活のしつけに繋がることを理解させる。
4. 支援する方法や機会は多様であり、実践できる機会を増やすことがビーバースカウトの成長にとって重要であることを理解させる。
5. ビーバースカウト年代の一般的な特性について、子どもの日常的な姿と行動に繋げて理解させる。
6. ビーバースカウト活動がビーバースカウト年代の特性と大きな関わりがあることを理解させる。

準備品（資材・資料）

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・日本連盟発行書籍「おきて指導の手引き」
- ・ビーバースカウト隊リーダーハンドブック（2017改訂版）

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

*このセッションはスカウトコース § 5 「スカウト運動」を踏まえて展開する。

- (1) 日常生活での「おきて」の実践が「ちかい」の実行につながり、原理に基づくスカウト運動の目的が達成されることを振り返り、ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」はそれに導くものであることを強調する
- (2) ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」について
 - ① 「やくそく」と「ちかい」の関連について説明する。
ビーバー隊の指導者が「ちかい」を意識してビーバースカウトを導くことが重要となる。
 - ② 「きまり」と「おきて」の関連について説明する。
「きまり」はビーバースカウト年代特性（自己中心的な傾向が強く、そこから脱却する段階である）を踏まえていることをおさえる。
- (3) ビーバースカウト年代の特性について
 - ① 個人作業、グループ作業、担当者による説明、等により共有する。
 - ・身体的な面、精神的・心理的な面、社会的な面について考える。
 - ・スカウトの日常的な姿と行動につなげて考える。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 隊長自身の日常の生活における「ちかい」と「おきて」の実践が重要であり、またビーバースカウトが日常の大半の時間を過ごす家庭や地域における「やくそく」と「きまり」への取り組みも重要であるから、家庭や地域との連携を大切にする必要性についても知らせる。
- (2) タイミング良くほめることで、次の行動への動機付けを行うことができる。そのために指導者は、スカウト一人ひとりをよく知り、観察するよう心がけることを伝える。
- (3) 幼いからできないのではなく、それぞれの年代にふさわしい貢献がある。できることから毎日少しずつ行えるように支援することが大切であることを強調する。
- (4) ビーバースカウト活動は、すべてビーバースカウト年代の子どもたちの特性（発達段階や一般的特性）を理解することから始まることを強調する。
- (5) ビーバースカウト一人ひとりをしっかり把握し、個に応じた支援（一人ひとりを大切に思う気持ちとともに）が必要であることを伝える。

3. その他確認事項

§ BVS-2 ビーバースカウト隊のプログラム

（60分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ビーバースカウト部門の進歩制度とプログラムの関係を理解する。
2. ビーバースカウト部門のプログラムプロセスについて理解する。
3. 柔軟性のあるプログラムが必要なことを理解する。

指導上のねらい

1. ビーバースカウト部門の活動の目標、グループと進歩制度のねらいと仕組みについて正しく理解し、プログラムに反映させて運用することが、スカウトをカブスカウト隊への上進に導くことに繋がることを理解させる。
2. プログラムは様々なニーズに基づいたものであることを理解させる。
3. ビーバースカウト隊の諸会議のそれぞれの役割について知らせる。
4. ビーバースカウト年代の興味の持続時間は短く、柔軟性のあるプログラム展開が重要であることを気づかせる。

準備品（資材・資料）

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・ビーバースカウト隊リーダーハンドブック（2017改訂版）

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

（1）ビーバースカウト活動の概要

①ビーバースカウト活動のねらいについて

- ・ビーバースカウト年代の子どもたちの特性を踏まえ、その成長やこの年代に応じたねらいを定めている。
- ・カブスカウト隊への上進を目指すものである。

②ビーバースカウト活動の目標について

- ・活動（遊び）を通じて自然に体得出来るようにすることが必要である。

（2）プログラムとは何かについて概説する。

（3）ビーバースカウト活動のプログラムの特徴

①活動は1回完結型であり、活動のネーミングとして「タイトル」を用いることを説明する。（カブ部門のプログラムの「テーマ」と混同しない。）

②ビーバースカウトが抱く憧れや興味（スカウトの思い）に、保護者・指導者・社会のニーズ（ビーバースカウトにどのようなことをさせたいか、どのような青少年になってほしいか）を取り込み、プログラムを企画し実施展開することが、子どもを成長させることにつながることを説明する。

（4）ビーバースカウト隊における班制教育

①小グループ活動の素地作り（カブ隊の「組」、ボーイ隊の「班」へつなげるため）として、固定したグループや「長」は設定しない。

②アドホックなグループでの活動である。

（5）ビーバースカウト部門の進歩制度とプログラムの関連

①進歩課程：「ビーバー」と「ビッグビーバー」

学年にしたがって一斉に「進級」する。

②進歩課目：「木の葉章」と「小枝章」

スカウトの活動への参加の奨励である。

進歩課目をプログラムに反映させることが大切である。

(6) プログラム立案の流れと諸会議の役割について以下の項目について説明する。

①年間計画会議

②プログラム会議

③実施計画書の作成

④隊集会の実施と評価反省

(7) ビーバースカウト年代は興味の持続時間が短く、多くの予備プログラムを準備しておくなど、柔軟性のあるプログラムが必要であることを説明する。

また、天候や環境に応じたプログラムの準備も必要である。

2. 訓練目標を達成するための留意点

(1) ビーバースカウトの訓育として「カブスカウト隊への上進を目指すものとする。」としているように、一貫教育を意識してビーバースカウト活動を展開することが重要であることを強調する。

(2) プログラムは活動の目標を達成するためのものであると同時に、スカウトの憧れや興味、保護者・地域社会・スカウト運動のニーズに基づいたものであり、プログラム立案に当たってはまずこれらを考慮する必要があることを理解させる。

3. その他確認事項

§ BVS－3 隊集会

（45分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊集会プログラム（隊集会実施計画書）に基づき実施される隊集会の流れを理解する。
2. 隊集会の評価について理解する。

指導上のねらい

1. 隊集会実施計画書に基づき隊集会の流れを説明する。
2. 多くの人の協力が大切であることに気づかせる。
3. 実施後の評価が次の隊集会を良くすることに繋がることを理解させる。
4. 実習体験を通じて、ビーバー部門の各種動作・合図が正しくできるようにする。
5. スカウト教育法の8つの要素が、ビーバースカウト活動（隊集会）の中でどのように関わっているのかを確認させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト「隊集会実施計画書」
- ・ワークシート「隊集会実施記録書」
- ・日本連盟発行資料「基本動作・礼式の基準」改訂版

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) スタッフ側で用意した隊集会実施計画書（例）に基づき、隊集会の流れを説明する。
プログラムに含まれるアクティビティについて説明し、そのねらいを説明する。
活動目標やスカウト教育法がどのように反映されているか説明する。
- (2) ビーバーの基本動作
ビーバー隊の基本動作について確認をする。
 - ・集散法（その由来についての説明を含む）
歌「みんなで大きな輪をつくろう」
ビーバーコール
 - ・ビーバースカウトの敬礼、サイン、祝声
- (3) 隊集会の評価について実施後の評価が次の集会の改善につながることを説明する。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 本セッションは基本動作のみのセッションではない。隊集会プログラム立案時に考えておくべき要素を理解させることが重要である。
- (2) セレモニーの流れ、ビーバー部門の独特な動作について確認を行う。
- (3) 集散法・敬礼、サイン、祝声は日本連盟発行書籍「基本動作・礼式の基準」に即したものをを行う。この各種動作・合図が日本連盟における基準であり、地区や県連盟等の合同行事等における基準となり、各団の相違点を否定や矯正するものではないことを伝える。

3. その他確認事項

- (1) 実施計画書は活動の目標を達成するためのものであると共に、スカウトの成長のために無くてはならないものであることを強調する。
- (2) 一方で、臨機応変な対応ができるように常日頃の研鑽が必要であることを伝える。
- (3) 活動には、ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」、ビーバースカウト年代の特性、安全、進歩制度が反映されていなければならない。そのためにも計画が必要であることを強調する。
- (4) スカウト運動の基本は野外での活動であり、ビーバースカウト活動においても例外でないことを伝える。
- (5) 保護者との連携をふくめ、多くの人々との協力が重要であることを伝える。

§ BVS-4 プログラム開発と年間計画

(75分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊活動に必要なプログラムのヒントを知る。
2. プログラム開発の必要性を理解する。
3. スカウト技能をビーバースカウト年代の特性に合わせてプログラムにアレンジできる。
4. 年間プログラムの作成ができる。

指導上のねらい

1. ビーバースカウト年代向けのゲーム、クラフト、ソングなどの紹介を通じてプログラム立案のヒントを与える。
2. プログラムのヒントは様々な場面で得ることができることを理解させる。
3. スカウト活動の特徴である自然の中での活動やスカウト技能を応用したプログラムがビーバースカウト部門でも大切であることを理解させる。
4. 年間プログラムの作成を通じて、年間プログラムの立案過程を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ビーバースカウト隊リーダーハンドブック(2017改訂版)
- ・参考書籍「スカウトハンドブック ベーシック」
- ・ハンドアウト「年間プログラム」(スタッフが作成したもの)
- ・ワークシート「年間プログラム」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

(1) ビーバースカウトのプログラム

- ①よいプログラムの要素 (BVS隊リーダーHB 52ページ)
- ②プログラムのヒント (BVS隊リーダーHB 76ページ)
- ③プログラム開発にあたっては、あらゆる方面でその材料となるものを日常的に探しておくことを心がけるとよい。様々な場面で得られる素材がプログラムのヒントにつながる。

(2) スタッフ側が準備したプログラムのアイデアを複数紹介する。

- ・自然の中で行うプログラム
 - ・表現力を伸ばすプログラム (歌や簡単な劇など)
 - ・ビーバースカウトの「やくそく」やビーバー隊の「きまり」の実践につながるもの
- *年代の特性に配慮したプログラムであること

(3) プログラム開発の実習

アイデアからプログラムを開発する手順を体験実習することで理解し、年間プログラム作成、隊集会プログラムの実習に繋げる。

(注1) このセッションでは「プログラム」は隊集会で実施する具体的な内容のことを意味する。

(注2) このセッションでは「プログラム開発」はアイデアを実施するものに仕上げる過程のことを意味する。

①グループ作業で行う。

ロープワーク (又は他のスカウトスキル) からアイデアをふくらませて「やれそうなもの」をリストアップする。

実習を円滑にすすめるため、事前にアイデア素材やスカウト技能から「やれそうなもの」をだす方法を例示すると良い。

- ②「やれそうなもの」から一つ選び、実施するための工夫を加え「実施できるもの」にする。
この課題は実施計画書のレベルまで求めている。プログラムの概要が示されればよい。

(4) 年間プログラムの基本的な作成手順の確認と、年間プログラムの作成

<年間プログラム作成の手順>

- ①同様の手順でやれそうなものをリストアップする。
- ②実施するプログラムを選び出し、活動の概要、ねらいを定める。
- ③タイトルを定める。
- ④木の葉章課目を定める。
- ⑤年間プログラム予定表用紙に記入する。

<実習>

各グループで年間プログラムを作成する。

(5) 年間プログラム作成のチェックポイント

- ①ビーバースカウト活動の目標が反映されているか。
- ②進歩課目、スカウトの憧れや興味、保護者・社会・スカウト運動のニーズなど様々な要素が考慮されて、バランスの良い年間プログラムになっているか。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) ハンドアウトの「年間プログラム」は担当所員が作成して用意する。
まとめの時に年間プログラムの全体像（様々な要素のバランス・ビーバースカウト活動の目標の反映を見るときに活用する。）
- (2) 年間プログラム作成の実習時間によって、1年間全てをたてることができない場合は数ヶ月分をかまわないが、必ず一連の手順を体験してもらう。

3. その他確認事項

- (1) 工夫してプログラムを開発することが活動の幅を持たせ、楽しいプログラムを実施することにつながることを強調する。
- (2) ビーバースカウト活動の目標が反映されていること、進歩課目を含めた様々な要素が考慮されて、バランスのとれた年間プログラムになっていることがスカウトの興味を持続させ、スカウトの成長を促すことにつながることを強調する。

§ BVS-5 隊集会プログラム

(90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊集会プログラム（実施計画書）を作成できる。
2. プログラムの中で進歩制度を活用できる。

指導上のねらい

1. 隊集会プログラム（実施計画書）の作成を通じて、隊集会プログラムの立案過程を理解させる。
2. 隊集会実施計画書の必要性について理解させる。
3. 木の葉章、小枝章を効果的に使用することの大切さを理解させる。
4. プログラム会議、事前の下見の大切さを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ビーバースカウト隊リーダーハンドブック（2017改訂版）
- ・ワークシート「隊集会実施計画書」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 隊集会実施計画書はプログラム会議の中で、役割分担、資材準備、保護者への連絡までできるように細部まで計画する。
- (2) 実習
スタッフ側が隊集会の企画（アイデア）を示し、グループで、隊集会プログラム（隊集会実施計画書）を作成する。

<作業を進めるに当たっての留意点>

- ① 隊集会実施計画書様式にはセレモニー、記章授与などがすでに記載されているので、それぞれの実施方法・ねらいについて説明する。
- ② 木の葉章、小枝章を効果的に授与することを考慮させる。
- ③ 下見や安全対策についても計画書作成時に考えさせる。

(3) 作業の振り返りと評価

- ① 作業の振り返りとして各グループの発表を行う。
- ② 進歩制度が活用され、活動への励ましが効果的に行われているか確認する。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 隊集会プログラムは、隊長一人で作るものではなく、ビーバー隊指導者、補助者、団担当者など多くの人々が集まって作られていくものであることに気づかせる。
- (2) 隊集会実施計画書は単なるタイムスケジュールではなく、スカウトの進歩・成長に寄与するものであることを強調する。
- (3) 隊集会実施計画書があることで、関わる指導者の共通理解がとれ、安全に活動ができることにも繋がることを理解させる。

3. その他確認事項

セッションの運営

(課程別研修)

カブスカウト課程

§ CS-1 ちかいとおきて (カブスカウトのやくそくとさだめ)

(45分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. カブスカウトの「やくそく」を理解する。
2. カブ隊の「さだめ」を理解する。
3. カブスカウトが日常生活の中で、カブ隊の「さだめ」が実行できるように支援できる。

指導上のねらい

1. 「ちかい」と「おきて」とカブスカウトの「やくそく」とカブ隊の「さだめ」の関連を理解させる。
2. 日常生活において、スカウトが実践できるように指導（支援）することが、隊長としての任務であることを理解させる。
3. 指導者の日常の言動が、スカウトに対する「ちかいとおきて (カブ隊の「やくそく」とカブ隊の「さだめ」) の実践」指導（支援）につながることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・カブスカウト隊リーダーハンドブック (2017改訂版)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) カブスカウトの「やくそく」とカブ隊の「さだめ」について
 - ①「やくそく」と「さだめ」について
 - ②ちかいとおきてとの関連
- (2) カブスカウトの「やくそく」とカブ隊の「さだめ」の指導・支援について
 - ①プログラムや活動における「やくそく」と「さだめ」
 - ②日常生活における「やくそく」と「さだめ」
- (3) カブ隊の「さだめ」と組集会・隊集会
 - ①作業により、「さだめ」の項目と活動の場面の関連を認識させる。
 ※グループ作業や個人作業を設定する。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) スカウトコース § 5 「スカウト運動」との相違を認識しておく。
- (2) 活動や日常生活の中に常に「やくそく」と「さだめ」があることを、指導者は常に認識しておく必要があることを伝える。
- (3) 指導者の日常の言動が、スカウトに対する「ちかいとおきて (やくそくとカブ隊のさだめ) の実践」指導（支援）に大きく影響することを伝える。

3. その他確認事項

講義が中心となるが、グループワークや個人作業を実施する。

§ CS-2 年代の特性とプログラム

(45分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. カブスカウト年代の特性を理解する。
2. カブスカウト年代のあこがれや興味を理解する。
3. カブスカウト年代の青少年を取り巻く環境を理解する。

指導上のねらい

1. カブスカウト年代の発達段階での特性を理解させる。
2. カブスカウト年代の特性やニーズとカブスカウトの活動目標との関連を理解させる。
3. カブスカウト活動の目標を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・カブスカウト隊リーダーハンドブック (2017改訂版)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

(1) カブスカウト年代の一般的特性 CS隊リーダーハンドブックより

- ①肉体的特性
- ②知的特性
- ③情緒的特性
- ④社会的特性

(2) カブスカウトのプログラム

- ①カブスカウト活動のプログラム要因
 - ・スカウトのあこがれや興味
 - ・保護者のニーズ
 - ・社会のニーズ
 - ・スカウト運動のニーズ
- ②「カブスカウト活動の目標」確認

(3) スカウトのあこがれ・興味をプログラムへ ※グループ作業や個人作業を設定する。

- ①スカウトのあこがれ・興味をプログラムに発展させることが重要であることを説明する。
- ②スカウトが楽しいと思う活動と「カブスカウト活動の目標」の関連性について作業により理解させる

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) スカウト運動は教育運動であるということを、指導者は常に認識しておく必要があることを伝える。
- (2) カブスカウト年代の興味あること(ニーズ)は、時代とともに変化していくものであるために、指導者は、常にアンテナを張ることが必要であることを伝える。
- (3) カブスカウトは、大きなビーバースカウトではなく、小さなボーイスカウトでもない。その為にも指導者は、カブスカウト年代の発達段階における特性を理解しておくことが必要であることを伝える。

3. その他確認事項

講義が中心となるが、グループワークや個人作業を実施する。

§CS—3 カブスカウト隊の集会

(50分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊集会プログラム (隊集会実施計画書)、組長集会、組集会プログラム (組集会実施計画書) に基づき実施される隊集会、組長集会、組集会の流れを理解する。
2. 各集会の評価について理解する。

指導上ねらい

1. 各種集会の流れを隊集会実施計画書、組集会実施計画書に基づき説明する。
2. 多くの人の協力が大切であることに気づかせる。
3. 各種集会実施後の評価が次の集會を良くすることに繋がることを理解させる。
4. 実習体験を通じて、カブ部門の各種動作・合図が正しくできるようにする。
5. スカウト教育法の8つの要素が、カブスカウト活動 (隊集会組長集会・組集会) の中でどのように関わっているかを確認させる。

準備品 (資材・資料)

- ・日本連盟発行資料「基本動作・礼式の基準」改訂版
- ・カブスカウト隊リーダーハンドブック 2017改訂版
- ・ハンドアウト 隊集会実施計画書
組集会実施計画書
組長集会実施計画書

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 組集会・隊集会・組長集会の構成とねらいの確認する。
 - ① スタッフ側で用意した「スカウティングの匂い」のする隊集会実施計画書 (例)、組集会実施計画書 (例)、組長集会実施計画書 (例) に基づき、各集会のねらいと構成について説明する。
 - ② 活動目標やスカウト教育法の8つの要素がどのように反映されているか説明する。
- (2) カブスカウト隊の基本動作について確認する。
 - ① カブ隊の基本動作
 - ・気をつけ・休め・すわれ (声の合図により)
 - ・カブスカウトの敬礼 (敬礼の意味を説明する。)
 - ・カブサイン、カブスカウトの握手、祝声
 - ② カブスカウト隊の集散方法
 - ・パック・パック・パック (ロックサークル) → 大輪 (パレードサークル)
 - ・カブコール・敬礼
 - ・大輪からの解散
 - ・仲良しの輪

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 本セッションは基本動作のみのセッションではない。組集会プログラム、隊集会プログラム立案時に考えておくべき要素を理解させることが重要である。
- (2) セレモニーの流れ、カブ隊の独特な基本動作について確認を行う。
- (3) このセッションで取り扱う基本動作は、日本連盟発行書籍「基本動作・礼式の基準」に即したものをを行う。この各種動作・合図が日本連盟における基準であり、地区や県連盟等の合同行事の基準となり、各団の相違点を否定や矯正するものではない。

(4) カブスカウトの敬礼、カブコールについては、その意味するところを説明する。

3. その他確認事項

- (1) スカウト立場での実習であるが、実際には指導者としてスカウトを指導する立場であることを確認する。
- (2) 組長集会については大がかりなものではなく、隊集会の前後に行うものであることと組長集会のねらい（なぜ行うのかの意味）について確認する。デンコーチ集会についても、同様とする。

§ CS-4 カブ隊のプログラムプロセスと年間計画

（90分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. カブスカウト隊のプログラムプロセスを理解する
2. プログラム委員の目的と役割を理解する。
3. カブスカウト隊の進歩制度とプログラムの関係を理解する。
4. 年間プログラムの作成について理解する。

指導上のねらい

1. プログラム委員を活用することは、プログラムに広がりや深み、奥行きを持たせることになり、楽しいプログラムとなることを理解させる。
2. プログラムはカブスカウト隊の進歩制度を取り入れたものでなければならないことを理解させる。
3. カブスカウト隊の活動は「月間テーマ」と活動目標を設定することから、プログラム立案の過程（プロセス）が始まることを理解させる。

準備品（資材・資料）

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・カブスカウト隊リーダーハンドブック（2017改訂版）
- ・ワークシート「年間プログラム」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) カブスカウト隊のプログラムプロセスと関連諸会議
- (2) プログラム開発とプログラム委員
- (3) 年間計画会議
- (4) テーマについて
- (5) 進歩制度とプログラムの関係
- (6) 年間プログラムの作成
※ワークシート等を使用した作業を行う
- (7) 年間プログラム作成に当たっての留意点

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) プログラム委員の人員構成とその効果について伝える。
- (2) 計画段階から成人のリクルートのつながりがあることを伝える。
- (3) 会議と集会の意味とそれぞれの持つ役割と効果を伝える。
- (4) 前年度の評価反省が重要であることを伝える。

3. その他確認事項

§ CS-5 月間プログラム計画 (リーダー集会)

(50分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. リーダー集会の目的を理解する。
2. 月間プログラムが作成できる。

指導上のねらい

1. リーダー集会で組み立てられる隊集会立案のプロセスを理解させる。
2. リーダー集会の結果、月間プログラムや組集会実施計画書が作成できることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・カブスカウト隊リーダーハンドブック (2017改訂版)
- ・リーダー打ち合わせ用紙(カブスカウト隊リーダーハンドブック 2017改定版 p308)
- ・組集会企画メモ (カブスカウト隊リーダーハンドブック 2017改定版 p309)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 月間プログラム立案のプロセス
- (2) リーダー集会
- (3) 月間プログラムの作成
- (4) 進歩制度とプログラム

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 月間プログラム立案については、「リーダー集会打ち合わせ用紙」のそれぞれの項目を理解させたい。隊集会立案のプロセスを体験させる。
- (2) 隊集会は、組集会を積み上げて実施されることを確認する。
- (3) リーダー集会の結果、デンリーダーは組集会実施計画書を、隊長は隊集会実施計画書を作成できることを理解させる。

3. その他確認事項

§ CS-6 プログラムの実施計画

(50分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊集会実施計画書、組集会実施計画書作成の作成について理解する。
2. 隊長は他の指導者の協力を得て、隊集会を主宰することを理解する。

指導上のねらい

1. 隊集会実施計画書、組集会実施計画書作成の意義とその方法について理解させる。
2. 活動には多くの人の協力が必要であることに気づかせる。

準備品(資材・資料)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 組集会実施計画書、隊集会実施計画書の作成
※ワークシート等を使用した作業を行う
- (2) 集会の評価
 - ①評価の必要性
 - ②評価のポイント
 - ③評価と報告書

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 組集会が単独のものではなく、隊集会につながるものであることを伝える。
- (2) 隊集会での励ましは、個々のスカウトの進歩・発達につながることを伝える。
- (3) 大勢の仲間の中で認められることは、スカウト自身にとっても保護者にとっても嬉しいことであり、それが活動の継続につながることを伝える。
- (4) 隊集会の中で隊長、副長、デンリーダーの役割を明確にすることを伝える。
- (5) 評価・反省をすることは隊長自身のステップアップにもつながり、それはスカウトによりよいプログラムを提供することになることを伝える。
- (6) 隊集会を主宰するのは隊長であるが、多くの指導者の協力を得ることでよりよい隊集会を実施できることを伝える。

3. その他確認事項

セッションの運営

(課程別研修)

ボーイスカウト課程

§BS-1 年代の特性とプログラム

（60分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ボーイスカウト年代の青少年の特性・ニーズを知る。
2. 生活環境が青少年の考え方、行動、興味等に影響を与えることを理解する。
3. ボーイスカウト部門の活動目標を理解し、目標達成にはスカウトの参画が重要であることを認識する。

指導上のねらい

1. ボーイスカウト年代の青少年の一般的な特性やニーズを知らせる。
2. 青少年を取り巻く生活環境や社会環境が青少年の考え方や行動に影響を与えることを理解させる。
3. ボーイスカウト部門の活動目標（教育規程 7-23）を理解させ、これらは主にスカウトが隊・班活動に参画することを通して達成することを認識させる。

準備品（資材・資料）

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック
- ・最近の「青少年の一般的特性や現状」の資料（国や行政の資料を参考）

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) ボーイスカウト年代の青少年の一般的な特性とニーズ
 - ①一般的な特性について
 - ②スカウトのニーズ
- (2) 生活環境
 - ①青少年を取り巻く現状
 - ・価値観の変化
 - ・考え方の変化
 - ・行動の変化
- (3) ボーイスカウト部門の活動目標と発達領域
 - ①ボーイスカウト部門の活動目標
 - ②5つの発達領域
- (4) 青少年の参画
 - ①スカウトがプログラムの実践に影響を及ぼす意思決定に参画
 - ②意思決定には責任が伴う

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) ニーズについては自隊のスカウトをイメージさせる。
- (2) 青少年の一般的特性や現状は新しい資料、情報を活用すること。
- (3) ボーイスカウト部門の13の活動目標と5つの発達領域の関連を考えさせる。
- (4) 青少年の意思決定参画は新しい考え方ではないことを理解させる。

3. その他確認事項

§ B S - 2 班制教育と進歩制度

(60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ボーイスカウト部門の班制教育の機能について理解する。
2. ボーイスカウト部門の進歩制度を正しく運用する方法を理解する。
3. スカウト教育の方法である班制教育と進歩制度の関連を理解する。

指導上のねらい

1. スカウティングの目的、原理、方法について再確認し、スカウティングの教育の方法である班制教育と進歩制度を再認識させる。
2. スカウト活動が一貫性のある進歩を重視し、ボーイスカウト隊からベンチャースカウト隊の進級課程が一本化した進歩制度になっていることを理解させる。
3. 班活動は隊運営の基本であり、隊長の役務は班長の指導力を育成することによって班活動を活発化することであることを理解させる。
4. 小グループ活動を通して青少年が社会の一員として成長することを理解させる。
5. スカウトの成長のために目標を設定し、スカウト一人ひとりの自発活動が基本であることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) スカウト運動の目的、原理、方法について再確認する。
- (2) 班制教育
 - ①班制教育とは
 - ②班とは
 - ③班長の役割
 - ④班長会議と班長訓練
 - ⑤対班競点について
- (3) 進歩制度
 - ①進歩制度とは
 - ・しくみ
 - ・ねらい
 - ②進歩制度の構成
 - ・進級課目 (必修)
 - ・技能章課目 (選択)
 - ・考査 (考査員認定、隊長認定、班長認証)
 - ③進歩記録

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) スカウティングの目的、原理、方法を再確認することによって班制教育と進歩制度の理解を深めさせる。
- (2) 班制教育はスカウト運動を導く最良の方法であるが、単にグループワークにならないために、そこに進歩制度を取り入れないと完全なものとはならない。
- (3) 班制教育を最大限に活用してリーダーシップ、メンバーシップ、フォロアーシップ

を学び品性を培うことを強調する。

- (4) 班長たちを全面的に信頼し本物の責任を与えることが重要であることを理解させる。
- (5) 進歩制度はスカウトが「ちかい」「おきて」を日常生活の中で実践する努力をしながら進歩課程を修得することによって進歩する制度であることを理解させる。
- (6) 進級課程は、初級から富士までの一貫した進歩制度であり、初級－2級－1級－菊－隼－富士の6段階の進級章を全て取得して到達点である富士スカウトを目指すことを理解させる。
- (7) ただ知識を得るだけでなく実際に手足を使って自分の身体で覚えることを強調する。
- (8) 進級と進歩は同じでないことを理解させる。

3. その他確認事項

§BS-3 年間プログラムと月間プログラム

(90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウト活動におけるプログラムの重要性とプログラムサイクルについて理解する。
2. 年間プログラム策定プロセスと活動計画との関連を理解する。
3. 年間プログラムに基づいて月間プログラムが策定できる。

指導上のねらい

1. スカウト活動におけるプログラムは、目的と目標、方向性を持っていることを理解させる。
2. プログラム策定のプロセスに教育的意味を持たせていることを理解させる。
3. 年間プログラムがそれぞれの活動計画(月間プログラム計画、隊集会計画、班集会計画、班長訓練計画等)にどのように関連するかを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) プログラムプロセスについて
 - ①プログラムサイクルについて
PLAN(企画)・DO(実施展開)・SEE(評価反省)
- (2) 年間プログラム
 - ①策定プロセス
立案のポイント
- (3) 月間プログラム
 - ①策定プロセス
立案のポイント

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) プログラムを企画、実施展開、評価をするのはスカウト自身であり、指導者はそれを支援する立場であることを理解させる。
- (2) 班長会議に責任を持たせるが、隊長の意図する方向に班長会議が動くようにするには隊長としての教育的配慮が期待されることを理解させる。
- (3) 年間プログラムに基づいて月間プログラムを策定する手順と内容を正しく理解させる。
- (4) 例示した年間プログラムから月間プログラムが策定できるようにさせる。

3. その他確認事項

§ B S - 4 個人の進歩

(60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 青少年一人ひとりが自分自身の発達を意識し、積極的に関わることを理解させる。
2. スカウトが自分自身で個人的な発達目標を立て実行するために、指導者の支援について理解させる。
3. 進歩に対して適正に評価し、認証することの重要性を理解する。

指導上のねらい

1. スカウトの積極性を伸ばさせ自分自身の発達に責任を持つよう理解させる。
2. スカウトが自分自身の速度で自分自身のやり方で進歩するために指導者が援助することを理解させる。
3. スカウト個々を把握し、進歩を評価して認め、褒めることでスカウトが更に進歩することを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

- (1) 教育の目的の再確認
- (2) スカウト教育法の再確認
- (3) 個人の進級計画
 - ①スカウトが自分自身で進級の計画を立てる
 - ②指導者のフォロー
- (4) 考査
 - ①考査の原則
 - ②考査の方法と責任
 - ③基準の維持
- (5) 認証
 - ①認証とは
 - ②認証区別
 - ③面接

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) ボーイスカウトの活動中(隊集会、班集会等)だけでスカウトが進歩するのではないことを充分伝える。
- (2) スカウトが責任ある社会の一員として成長するために指導者が果たす役割が重要であることを理解させる。
- (3) 進級課程の趣旨と具体的内容を説明し、初級から富士までの一貫した進歩制度であり、個人の進級計画ができるように指導者の支援が必要なことを理解させる。
- (4) 班長が課目の認証を行うが、必要に応じて隊指導者が支援すること理解させる。

3. その他確認事項

§BS-5 隊のプログラム

（60分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊の様々なプログラムの役割と機能について理解する。
2. ボーイスカウト部門のプログラム展開で指導者が果たすべき役割を理解する。

指導上のねらい

1. ボーイスカウト部門プログラムチャートから各々の集会等の役割と機能を理解させる。
2. ボーイスカウト部門のプログラム展開において指導者が果たすべき役割と具体的な関わり方を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

(1) 隊のプログラムの役割と機能

- ①班会議
- ②班長会議
- ③班長訓練
- ④班集体会
- ⑤隊集会
- ⑥リーダー会議

(2) プログラムの展開に関する隊長の役割と関わり

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 隊のプログラムは時系列で考えさせることで、プログラムの流れが理解できる。
- (2) 各々の集会等の役割、機能と指導者の役割・関わりについては一覧表を作成させることでより理解が深まる。
- (3) 隊のプログラムを実施するうえで、保護者への説明が必要であり、参加したことでスカウトがどの様に成長するのか、また成長したのかを常に指導者は考えていなければならないことを理解させる。

3. その他確認事項

セッションの運営

(課程別研修)

ベンチャースカウト課程

§ VS-1 年代の特性とプログラム

(60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ベンチャースカウト年代の青少年の特性を理解する。
2. ベンチャースカウト年代の青少年を取り巻く環境を理解する。
3. ベンチャー部門の教育、活動の目標を理解し、スカウトの興味・関心事をプログラムに昇華できる。

指導上のねらい

1. ベンチャースカウト年代の青少年の共通する特性についてその概要を理解させる。
2. 現代の青少年の生活様式、行動形態、考え方、興味などに見られる傾向などについて理解させる。
3. 中学3年生9月以降から18歳に至る年齢差による意識、行動の違いを理解させ、これらは青少年の置かれている社会的背景が色濃く反映することを理解させる。
4. 興味・関心はスカウトの行動の原動力となるものであり、これを把握しプログラムに反映させ、活動を通して個人的成長を促すことを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・ベンチャースカウト隊長ハンドブック
- ・最近のベンチャースカウト年代を研究した資料・書籍

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

このセッションではベンチャー年代の特性、現在の青少年が置かれている社会的背景が彼らの行動や考え方、行動、価値観に影響することを理解する。

また、この部門の教育の方法を学習する。

(1) ベンチャー年代の特性、現代の社会的背景について

- ①ベンチャースカウト年代の特性について、資料・書籍など最新の情報を活用して一般的内容を説明する。
- ②青少年の考え方・行動・価値観はその時の社会情勢や彼らを取り巻く環境によってそれぞれ大きく影響され左右されることを資料・書籍など最新の情報を活用して説明する。

(2) ベンチャースカウトの教育と目標の理解

- ①ベンチャースカウトの教育と活動の目標とについて説明する。
- ②スカウト運動が青少年の成長に貢献するものであることを説明する。
- ③活動の原点となる彼らの興味・関心をプログラムにいかに取り込むのかが重要なポイントとなることを説明する。

(3) スカウトの興味・関心をプログラムへ

- ①スカウトの興味・関心事をプログラムに発展させることが重要であることを説明する。

※スカウトの興味・関心はベンチャースカウト活動の原点であるが、それだけに焦点をあてず、スカウト教育法と活動目標を見据えて昇華させることも説明する。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) ベンチャースカウト年代の青少年が「求めているもの」を再認識し、隊指導者は引き出し役であり、指示役でないことを理解する。

- (2) 成長に従って彼らの「求めるもの」は変化するが、社会情勢、家庭環境、教育環境によって大きく影響され、変化することを忘れてはならない。
- (3) 各スカウト個人の相違（性格、長所・短所、特技、関心事）を把握するには、指導者は実際の活動を通して理解する態度こそ欠かすことができないことに留意する。

3. その他確認事項

講義が中心となるが、グループワークの体験を配慮する。

§ VS-2 隊運営とグループワーク

(60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ベンチャー隊の組織構成について理解する。
2. ベンチャー隊運営について理解する。
3. ベンチャー部門における班制教育（グループワーク）の方法について理解する。

指導上のねらい

1. 隊組織が構築されて、部門の活動目標であるスカウトの、スカウトによる、スカウトのための自治運営ができることを理解させる。
2. 各種会議の種類と役割、活動チームの意義を理解させ、それに対する指導者の役割を理解させる。
3. 幹部スカウト育成の意義と役割について理解させる。
4. スカウトによる隊の管理（会計、連絡、記録、プログラム進行）の指導ができる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・ベンチャースカウト隊長ハンドブック
- ・スカウトハンドブック アドバンス

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

このセッションではベンチャー部門における組織について、班制教育はどのように行われるのかを理解し、隊運営を円滑に行う方法を学習する。

(1) 隊の組織について

- ① ベンチャー隊の組織、役割を説明する。
 - ・隊組織の編成
 - ・隊会議、隊運営会議の役割
 - ・運営をするためのスカウトの役割分担
 - ・活動チームの編成
 - ・運営に対する指導者の役割

② 隊運営のために

- ・スカウト主体で協議・調整する運営のためには、リーダーシップを図る核となるスカウト育成の重要性がある。
- ・自治運営のためには、スカウト全員がベンチャー隊における組織編成とその運営方法を理解し、体の一員としての意識のもとで会議体、集会に参加する。
- ・隊の中で発意、協議、調整、決議の過程を経ることで、スカウトは社会性（参加・帰属・規範意識）を身につけ、組織としての基盤が構築される。

(2) グループワークについて

- ① ベンチャースカウトに適した班制教育とは、恒久的な集団を前提とした活動から目的を前提とした集団（アドホック）の活動へとチーム編成の考え方が変化することを説明する。
- ② グループにおける相互依存関係
 - 個人がグループに与える影響：相互作用による個人の成長、所属意識の高揚
 - グループが個人に与える影響：目的達成に向けた自己の能力の提供

- ③ グループワークの価値
リーダーシップ、フォロースhip、メンバーシップの醸成
目的達成への協働

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 隊運営は標準隊を基本としてすすめていくこと。現実には少人数隊が多数を占めているが、スカウト教育をより効果的に実施展開するための研修であることを理解し、セッションを進める。
- (2) ボーイスカウトの班制教育について確認し、ベンチャー部門ではグループワークを活用した展開となることを説明する。

3. その他確認事項

§ VS-3 プログラムプロセスと活動計画

（90分）

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ベンチャースカウト部門のプログラムプロセスを理解する。
2. 年間プログラムの作成手順を理解する。
3. 活動プログラムの作成手順を理解する。

指導上のねらい

1. 隊組織の中で年間プログラムを作成する手順を理解し、それぞれの過程で指導者として留意すべきことを理解させる。
2. メンバー全員の技能、精神面の進歩状況、隊員数の現況を踏まえて計画することの重要性を理解させる。
3. メンバーの進歩を促進するために、進歩課目にあてはまる活動をプログラムに組み込ませることを意識させる。
4. 活動内容・時期、またはプロジェクト活動の実施期間を考慮した年間プログラムにする必要性を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集（最新年度版）
- ・ベンチャースカウト隊長ハンドブック
- ・スカウトハンドブック アドバンス
- ・ワークシート：①年間活動計画表、②企画書、③計画書（セッション担当所員が作成）

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

このセッションでは、隊組織の運営の中で年間活動計画を策定し、それに基づいて活動が展開されることを学習する。

(1) ベンチャー部門のプログラムとは

- ① この年代が個人的成長をするため、あるべきプログラムとはどのようなものか興味・関心事からプログラム化された例を提示して説明する。
- ② この部門では、確かな知識、使える技能、信頼される人柄・精神をプログラムを通して築き上げることを説明する。

(2) ベンチャー部門のプログラムプロセス

- ① プログラムプロセスについて確認する。
隊会議→隊運営会議→隊集会、チーム活動→隊会議
※スカウトの自治運営によるものであることを強調する。
※活動は各種会議で作成、承認、評価によるプロセスである。

(3) 年間計画表の作成手順

- ① 活動計画の作成手順を説明し、スカウトへの指導方法を理解する。
- ② 年間計画立案の実習をおこなう（スカウトの立場、指導者の立場を体験する）

(4) 活動プログラムの作成手順

- ① スカウトのニーズによる個人の活動や活動チームの成立について理解する。
- ② 活動プログラム企画・計画の実習をおこなう（スカウトの立場、指導者の立場を体験する）

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 作成にあたって、学校の行事時期の差異により、スケジュール調整をし、必ず全員が参加することが前提である。また、定例行事（団・地区などのスカウト関係、地域社会での行事）や講習会、奉仕など決定されている事項は盛り込んでおくこと。
- (2) スカウトニーズにより発意されたものが個人やチームの活動となるが、必ず全てのものが成立するわけではない。
- (3) 年間プログラムが個人の活動や活動チームだけにならないようにする。
- (4) 各種会議の明確化とともに、それぞれの段階での承認の必要性について押さえておく。

3. その他確認事項

目的と目標について説明し、明確化することを参加者に理解させる。

§ VS-4 個人の進歩

(60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. ベンチャースカウトの進歩制度を理解し、スカウト個々の成長のための支援ができる。
2. プロジェクトの概要、取り組み方、プログラムへの適用の意義を理解する。
3. 信仰奨励章、宗教章制定の趣旨と取得の方法について理解する。

指導上のねらい

1. 各進歩段階で求めるスカウト像について理解させる。
2. スカウト活動が一貫性のある進歩を重視し、ボーイスカウト隊からベンチャースカウト隊の進級課程が一本化した進歩制度になっていることを理解させる。
3. 自ら考え、行動し、その結果に責任を負うことのできるスカウトに成長するよう、プログラムに進歩課目を組み込んで、履修を促進することを理解させる。
3. ベンチャースカウトが取り組むプロジェクトとは何かを理解させる。
4. 信仰奨励章、宗教章の区別を明確にし、制度の違いを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規程集 (最新年度版)
- ・ベンチャースカウト隊長ハンドブック
- ・スカウトハンドブック アドバンス

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

このセッションでは、ベンチャースカウトの進歩制度について理解し、プログラムとの有機的なつながりをもって進めていくことを学習する。また信仰奨励についてその考え方・内容を学習する。

(1) ベンチャースカウトの進歩課程について

- ①ベンチャースカウトの進歩制度は、すでにボーイスカウト隊から始まっており、それぞれのスカウトの進歩によって、ベンチャースカウト隊での入隊時点でスタートラインが違うことを説明する。
- ②活動と課目の履修を通して目指すスカウト像について理解させる。(教育規程 7-54、7-55、7-56、7-57、7-60、7-61)
- ③ベンチャー隊から入隊したスカウトは、ボーイスカウト部門の初級から開始することから、初級から菊の事柄を説明する。

(2) スカウトのニーズをプログラム化するための方法について

- ①スカウト個人が自己の興味・関心から課題を発見し、課題を追求し、課題達成する一連の流れの一例を以下に示す。
 - ・目的をはっきり決め、目標を定め
 - ・計画、設計し、準備し
 - ・実施(実行、実践)し
 - ・その結果を点検・批判・評価し
 - ・改善すべきは改善し、時としてやり直し(試行錯誤)
 - ・熱意を失わず、興味を持続して遂行する
 - ・これにより信念(自信)を得る
- ②この方法について概要、価値、活動での取り組み方について学習する。

(3) プロジェクトについて

- ①ベンチャースカウトが取り組むプロジェクトの概要を説明する。
- ②ボーイ隊と同様にベンチャー隊でも、先輩スカウトからのアドバイスや隊長との面談を受けて個人の進級目標を設定し、その後のプロジェクトチームとしての取り組みや他隊への奉仕計画の中で個人の進歩計画を作成し、隊会議や隊運営会議での年間計画表の策定を経て、個人の進歩計画を作成させることを理解させる。
- ③自己の成長と社会に役立つ視点を持たせる。

(4) 信仰奨励章と宗教章

- ①信仰奨励章と宗教章制定の趣旨を説明する。
- ②それぞれの取得の方法について説明する。

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 部門の目標を達成するうえで、個々の青少年の身体的、知的、情緒的、社会的、精神的といった人間性のあらゆる側面の発達を促すよう、それぞれの部門・年齢層に相応しいように、進歩課目が設定され、それに向かって挑戦し、達成するスカウト活動の証となることを伝える。
- (2) 進級課程は、初級から富士までの一貫した進歩制度であり、初級－2級－1級－菊－隼－富士の6段階の進級章を全て取得して到達点である富士スカウトを目指すことを理解させる。
- (3) 隼、富士の課目履修は具体的な事例を列挙して説明する。
- (4) 進歩制度は、隊運営の中で課目履修するよう隊長は指導する。(活動計画、隊集会の活用)

3. その他確認事項

実習形式で行う場合は、一例であることを明確に伝える。

§ VS-5 評価と認定

(60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 活動プログラムの各段階における評価ができる。
2. 進級課目の認定ができる。

指導上のねらい

1. 次の活動につながる進歩・成長のため、活動をふりかえることの重要性を理解させる。
2. 評価と認定の方法と考え方を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ベンチャースカウト隊長ハンドブック
- ・スカウトハンドブック アドバンス

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要

このセッションでは、プログラムプロセスの各段階における評価や最終段階の評価、進級課目認定の方法とその考え方を学習する。

(1) 評価について

- ①評価とは何か、その必要性を説明する。
 - ・意義：ふりかえり、活動の全ての場面を総括することである。
 - ・目的：改善し、より良い成果を出すため。自身のレベルを上げて成長するため。
- ②評価の方法について示す。
 - ・指導者が行う評価
 - ・会議体が行う評価
 - ・自身が行う評価
 - ・保護者、地域、社会の評価

③各段階の評価

- ・プログラムプロセスの各段階における評価を説明する

(2) 進級課目の認定

- ①課目の認定者
- ②認定基準の調整
- ③進歩課目履修状況の把握

2. 訓練目標を達成するための留意点

- (1) 評価は何のために行うのか、なぜ行うのか、誰のために行うのかを明確にする。
- (2) プログラムプロセスの各段階における評価の必要性について説明する。
- (3) 進歩課目の認定は一定の基準が必要であるが、スカウト個々の個人差を配慮した認定基準を指導者は持つ必要があることを確認する。
- (4) プログラムを例示し、評価の実例を示して、具体的方法、評価基準の理解を深めるように配慮すること。
- (5) 認定、面接、認証、記章の授与は実習・実演により、大切な場面であることを説明する。

3. その他確認事項

ウッドバッジ研修所
スカウトコース・課程別研修
所員用ハンドブック（令和4年度版）

令和4年 月 日

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022

東京都杉並区下井草4-4-3

電話：03-6913-6262

ファックス：03-6913-6263

e-mail：training@scout.or.jp
